

**相模が丘動物病院
城下 幸仁 院長**



犬猫の呼吸器疾患を専門に診る2次診療施設。城下

院長は、全国でも数少ない専門医だ。

【犬のいびき】

「パグやフレンチブル、ボストンテリア、ボクサーなどの短頭犬種で、



1歳未満から「いびき」をかく子は、放置すると8歳ぐらいで突然死のリスクが高くなります」

動物の中でも、いびきをかくのは人と犬だけ。特に鼻ぺチャの短頭犬種は喉のつくりの特徴で、もともと睡眠時無呼吸を起こしやすい。病名を「短頭種気道症候群」という。

「いびきを始めて4年ぐらい経つと、軽い肺水腫や心肥大が起きてきます。でも、普段は元気なので飼い主さんは病気と思わない。肺や心臓が悪くなってしまると元に戻りません。早く

放置すると軽い肺水腫や心肥大を発症、突然死も

いびきを治して、この代償不全を防ぐことが重要です」

放置して6、7歳になると、起きていた時でも呼吸しづらい、疲れやすい、せきなどの症状が表れてくる。8歳ぐらいになると、軟骨でできている気管や喉頭まで潰れてきて突然死に至る。

「治療は手術。短頭犬種の分厚く長い「軟口蓋」という喉の奥の部分を切つて短くします。加えて、狭くなっている鼻孔も広げます」

4歳までに手術が必要

年を取るほど手術は難しくなり、最悪の場合には気道バイパスを作る「永久気管切開」が必要になる。できれば1歳未満、遅くても4歳までにいびき治療を済ませてもらいたいという。

「ボメラニアン、チワワ、シーズーなど他の犬種でもいびきをかけば同じ経過をたどります。ただし、軟口蓋が長いわけではなく、原因

《病院データ》
●住所＝神奈川県座間市相模が丘6-11-7
●診療時間＝9～12時(要予約)
●休診日＝火・水
●電話＝046・256・4351

の多くは肥満です。その場合、喉の脂肪が取れれば楽になるので、治療はダイエットが基本になります」